



あとがきにかえて

最後の受験生を送り出す時がやってきました。これまでも実にいろいろな塾生がいて、それぞれが納得できる進路選択に伴走することを心がけてきました。そして今年の受験生も一人ひとりが自分の進路に向けて全力を出し切ってくれることを信じています。

さてベルゲンの 25 年を少し振り返ってみます。3 回の引っ越しを経て今の塾舎にたどり着きますが、その間イベントもたくさんやってきました。“おもしろ理科実験”は開塾してまもなく最初の塾舎で始めましたが、3 回目くらいの時に熱気球を飛ばす実験をしていて糸が切れてそのまま飛んでいったことがあります。みんなで走って追いかけたけれど見失ってしまいました。音楽好きの塾生や講師の人たちがいたことで始めた“卒業ライブ”は恒例行事となりました。受験が終わったその日から新曲の練習を始めたものです。

こんな小さな塾でも何度か新聞やテレビの取材を受けました。FM ラジオの番組では“クリスマスでも頑張っている人特集”で冬期講習の授業中に生中継の電話インタビューでした。

塾外の活動としては、千葉学習塾協同組合に加盟しいろいろな情報を得てきました。そしてその理事長も務めました。千葉県教育委員会の学力向上委員であった 6 年間は定期的に会議に出席して意見を述べたり、高校へ視察に行ったりしました。朝日小学生新聞の天声こども語読解問題の作問はいつの間にか 600 回を超え、今後も続けていく予定です。何だか自慢話になってきましたが、この 25 年間のみなさんとの出会いこそが私の財産であり、これからも自慢していきたいことです。少なくとも“地域に根差した息の長い塾”という目標は達成できたのではないかと自負しています。卒業生の中には「自分の人生を変えてくれた」と大げさに言ってくれる人もいますが、そこまでではなくてもこの塾で過ごした時間が何かのきっかけになっていれば幸いです。

精一杯の感謝の気持ちを込めて「ベルゲン通信」最終号をお届けし、あとがきにかえることといたします。